

## 霞ヶ浦アカデミー 定期連続講座を始めた経緯と今後に向けて

(1) 2008年、平成20年総会後の反省会、理事会などで荒井理事長、故野口副理事長などからの提案で当面の活動として「出来ることから何かやりたい」、「霞ヶ浦に関する講座はどうか」、「堅苦しくなく、ファミリー的な運営」などの提案を受けて同年11月19日に第1回がスタートした。

(2) それ以来、五年余にわたって67回を行ってきた。

(3) 参考までに講座の当アカデミーの約款上の位置づけではどうなっているか。

第3条 (目的) この法人は霞ヶ浦を中心とした水環境の調査研究を元に、人材育成に関する事業を行い、地域の向上に寄与することを目的とする。

第4条 (特定非営利活動の種類)・・・前条の目的達成のため、次の種類の特定非営利活動の種類を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) 学術、文化、芸術、スポーツの振興を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 環境の保全を図る活動
- (5) 子供の健全育成を図る活動
- (6) 科学技術の振興を図る活動
- (7) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言又は援助の活動

第5条 (事業の種類)・・・第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として次の事業を行う。

- (1) 環境教育による各種人材育成講座の開設及び管理運営
- (2) 霞ヶ浦を中心とした湖沼等水圏に関する調査研究及び情報発信事業
- (3) 霞ヶ浦等の水圏に関するシンポジウム、講演会、協議会等の開催事業
- (4) 環境や生物に関する博物館等の施設の管理運営の請負事業
- (5) 霞ヶ浦等の水環境保全を推進する事業
- (6) 漁業等地域の基幹産業を通したまちづくりの支援事業
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(4) 今後の運営に向けて・・・参加者などの声（必ずしもアンケート結果ではない）

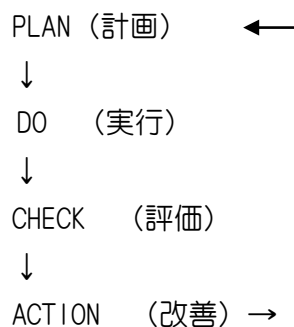
評価される点など

- ① 継続性
- ② 多彩な講師
- ③ 未知の話題が多い
- ④ 講師を知っているので聞きたい
- ⑤ 時局性がある（東日本大震災、放射能、ウナギなど）
- ⑥ 歴史の裏面を取り上げている
- ⑦ 講師や内容が現場に密着している（現場主義）
- ⑧ 質問、意見交換がしやすい（少人数？）

批判的な意見など

- ① 広報・周知が不十分
- ② 内容が専門的過ぎないか、（技術的なことにはあまり関心ない）
- ③ 講師が魅力的でない、または有名でない
- ④ テキスト、レジュメ配布が少ない、また講座記録の公開がない
- ⑤ 会場へのアクセス悪い（旧玉造以外の場所で出来ないか）
- ⑥ 時間帯が悪い
- ⑦ 運営がマンネリ化
- ⑧ アンケートが活かされていない
- ⑨ 講座に参加するメリットがない

P D C A サイクルにどう反映させるか



(5) (一財) 行方市開発公社との関係  
会場使用、広報等での協力